

令和5年度 府立宮津天橋高等学校宮津学舎 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>【教育理念】 真理と正義を希求し、豊かな人間性を備え、幸せな人生と社会を創造する人間を育成する。</p> <p>【教育目的】 我が国や地域社会の発展に貢献する「社会的使命感と青雲の志」を持つ人間の育成</p> <p>【教育目標】 1 幅広く深い知識を身に付け、豊かな情操と道徳心を培う。 2 自主自律の精神を養うとともに、主体的に社会の形成に参画し、その発展に貢献する。 3 伝統と文化を尊重し、郷土を愛し、地域社会を守り受け継ぐとともに、国際社会の平和と発展に寄与する。</p> <p>【育てる生徒像】 1 広い視野を持ち、理想を実現しようとする高い志や意欲を持って主体的に学びに向かい、自ら知識を深めて個性や能力を伸ばし、人生を切り拓いていくことができる生徒 2 対話や議論を通じて、自分の考えを根拠とともに伝えとともに、他者の考えを理解し、他者への思いやりを持って多様な人々と協働していくことができる生徒 3 感性を磨き続けながら、よりよい人生や社会の在り方を考え、試行錯誤しながら、問題に立ち向かい、新たな価値を創造していくことができる生徒</p>	<p>【成果】 ◇新学習指導要領への移行や観点別評価の実施については組織的に準備をしたため、スムーズに移行、導入できた。1年次生から1人1台端末(BYOD)が導入されたが、教育活動におけるICT機器の活用等一定レベルで対応することができた。 ◇研修計画に基づき、各種教育課題に関する教職員研修を実施し、知見を深めることができた。 ◇卒業式や修学旅行といった学校行事、合同部活動、遠隔教育システムを活用した授業や会議、進路指導体制など、「ひとつの学校」としての生徒・教職員両方の学舎間連携が進んだ。また、これまで異なっていた教育目的、教育目標、育てる生徒像について統一したものを作成できた。 ◇総合的な探究の時間については外部との連携が充実し、一定の形ができあがり、生徒の主体的な学びと素晴らしい最終報告会につなげることができた。普段の授業への取組や自身のキャリア形成に関する生徒の肯定的な意見も多く、学習効果が見られた。併せて希望進路実現に関しても、推薦入試での医学部医学科合格、一般入試での京都大学合格など素晴らしい成果につながった。 ◇部活動加入率は93%。体育系では硬式野球部が丹後緑風高校との連合チームとして選抜大会21世紀枠京都府推薦校に選出された。ボート部が全国インターハイ女子舵手付クォドルプルで6位入賞、陸上競技部が男子やり投げでJOCジュニアオリンピックカップに出場、ヨット部が国民体育大会に出場した。文化系では書道部・美術部・写真部の生徒が全国大会へ出展した。また、フィールド探究部が日本植物学会研究ポスター発表で優秀賞を受賞するなど、多岐にわたって活躍した。 ◇建築科では地域と連携した取組や外部講師による授業などを積極的に取り入れた。また3年生の多くの生徒が教育長表彰を受けるなど、成果につながった。 ◇命と人権の尊重を教育活動の根幹として教育活動を進めることができた。また、定期的な面談の他にも個別面談の機会を多く設けることで指導につなげることができた。 ◇国・府の新型コロナウイルス感染症に関する通知等に基づきながら教育活動の実施の可否、実施方法等を検討し、全校体制で進めた。幸い校内の感染クラスターは発生しなかった。</p> <p>【課題】 ◆一人一台端末導入に対応する授業の在り方(デジタルとアナログのベストミックス)や学びの個別最適化についてはさらに検証が必要である。また、教職員のICT活用スキルのレベルアップと活用環境の整備を継続して取り組む。 ◆両学舎生徒が互いに刺激し合いながら成長できるよう、様々な場面での加悦谷学舎との一層の連携を模索し、教職員・生徒の関係の深化を図る。 ◆総合的な探究の時間は現在の形になってから令和4年度で5年目を終え、地域に関するテーマも増えてきている。引き続きじっくりと学び、考える姿勢とアクションを起こす姿勢(外部との連携)を重視し、生徒の主体性とキャリア形成につなげる。また、通常の授業等でも外部との連携を継続する。 ◆コロナ禍により引き続き一定の制約がある中で教育活動を進めることとなった。特に部活動やボランティア活動では影響を受けた。一方、令和5年度からは第5類へ移行されることから、教育活動全般を可能な限り通常の形で取り組む。 ◆命と人権の尊重を訴えてきたが、規範意識に課題を抱えていたり、いじめにつながる行為が見られたりしたことから、引き続ききめ細かい生徒観察や声かけを継続する。個に応じて指導、カウンセリング、外部機関等につなげる。 ◆コロナ禍により、地域活動への参加、保護者の来校機会や部活動の観戦等が限られるものとなった。さまざまな手段を用いて、本校教育により関心を持っていただけるような積極的な情報発信を行う必要がある。</p>	<p>1 高度な知力と優れた人間性を備えた自律した個性を育てるための質の高い教育を提供する。また、それを担保するために教職員の資質向上と教育課題に組織的に対応する体制を充実させる。</p> <p>2 ひとつの学校として宮津天橋高校の新たな伝統づくりに取り組むとともに、宮津学舎ならではの特色を伸ばさせる。</p> <p>3 探究活動を通して生徒一人ひとりの優れた能力・適性を伸張させ、希望進路の実現に結びつく確かな学力を養成する。</p> <p>4 部活動、各種体験活動や学校行事を通して能力と可能性を広げるとともに、自主自律の精神、協働力や社会的使命感を育む。</p> <p>5 命と人権を尊重する態度を育てる教育活動を充実させるとともに、問題行動等に組織的に対応し、安心・安全を保障する学校づくりを進める。</p> <p>6 家庭・地域社会と一層の連携を図り、チームとして教育活動を充実させる。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
学校経営 組織運営	<p>○高度な知力と優れた人間性を備えた自律した個性を育てるための質高い教育を提供する。また、それを担保するために教職員の資質向上と、教育課題に組織的に対応する体制を充実させる。</p> <p>○ひとつの学校として宮津天橋高校の新たな伝統づくりに取り組みとともに、宮津学舎ならでは特色を伸</p>	<p>○2年目を迎える1人1台端末や観点別評価、新学習指導要領への移行等について前年度の課題を全校体制で修正・改善する。また、各種研修やOJTによる指導力の向上に努める。</p> <p>○ICT機器等の施設設備の充実などをはじめ、生徒の学習環境、教職員の職場環境の更なる改善を図る。</p> <p>○前年度に引き続き、学舎間の諸課題を整理し、その解決・改善に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら学舎合同の教育活動に充実させることで、より一体感のある学校を構築する。また、宮津学舎ならではの教育実践の特色を伸長させる。</p>	B			<p>○1人1台端末の活用が進み、授業評価アンケートにおいて生徒の学びの実感を示している。新学習指導要領への対応も同様である。一方で観点別評価は評価に時間を要し、課題が残る。学校DX研修、教職員研修など必要な研修に取り組めた。若手教員が多いがこれまでの風土を継承できている。</p> <p>○Teamsやスクリレの活用で負担軽減が進んだ。学校評価アンケートでも評価は高い。一方、Wi-Fi環境や学習環境の老朽化等の課題が残る。</p> <p>○5月以降教育活動全般がコロナ禍前のレベルに近い形で実施できた。両学舎合同の学校行事や進路指導に係る目線合わせ等もできた。さらなる交流等につなげたい。</p>
学習指導 進路指導	<p>○探究活動を通して生徒一人ひとりの優れた能力・適性を伸張させ、希望進路の実現に結びつく確かな学力を養成する。</p>	<p>○探究的な各種取組の中で、生徒が主体的に学び、感性を磨く機会となる指導の在り方について研究を推進し、生徒の一層の成長に繋げる。</p> <p>○それぞれの生徒の主体的な進路選択に向け、組織的かつきめ細かい支援体制の下で、生徒の希望進路の実現に繋げる。</p>	B		A	
生徒指導 特別活動	<p>○部活動、各種体験活動や学校行事を通して能力と可能性を広げるとともに、自主自律の精神、協働力や社会的使命感を育む。</p>	<p>○さまざまな生徒指導において、他者への理解、思いやりを持ち、主体的に行動できる生徒の育成を常に意識する。</p> <p>○生徒の成長のために重要な役割を果たす部活動、ボランティア活動、各種学校行事などの機会を確保し、生徒ができるだけ多くの経験を積むことができる場とする。</p>	C	B	B	
健康安全	<p>○命と人権を尊重する態度を育てる教育活動を充実させるとともに、問題行動等に組織的に対応し、安心・安全を保障する学校づくりを進める。</p>	<p>○人権感覚の涵養をベースとした規範意識の向上を図り、いじめ等につながる行為を見逃さない。</p> <p>○時宜に応じた面談や声かけ、家庭や関係機関との緊密な連携を図りながら思春期の心の揺れを受けとめ、情報共有を図りながら生徒の成長を支援する。</p>	B		B	
家庭・地域 社会連携	<p>○家庭・地域社会と一層の連携を図り、チームとして教育活動を充実させる。</p>	<p>○地域のさまざまな教育資源を積極的に活用するとともに、外部機関との更なる連携の拡充を図り、幅広い学力と郷土愛の醸成に努める。</p> <p>○本校教育活動への理解を広げるため、各種情報を一層、積極的かつタイムリーに発信する方法を研究し、それを実現する体制を構築する。</p>	A		B	
			B		B	<p>○Safari、建築科実習等では外部との連携ができた。特にSafariでは多くの連携が行われた。</p> <p>○ホームページ更新が前年度比約1.5倍となり、生徒会や部活動と連携できた。学校評価アンケートでも評価は高い。中学生対象の体験セミナー等で案内・学校紹介チラシ等を作成し、積極的な情報発信ができた。</p>

学校関係者 評価委員会 による評価	<p>○それぞれの学舎が特色を活かした教育活動を展開しており、全体として生徒の成長を感じられる。</p> <p>○地域との連携や交流が実践されており、学校・地域双方にとってメリットを生む教育活動になっている。</p> <p>○学舎間の交流も進められており、学舎独自だけではなく横の繋がりがあること高い教育効果を感じられる。また、学舎同士が競争し合うと同時に共創し合う関係を作り、お互いが補完し合いながら成長できるように一層取組を進めてもらいたい。</p> <p>○今年度より学校評価アンケートを共通仕様にしたことも含めて、それぞれの学舎の課題がはっきりと見えてきた。その解消に取り組むとともに、経年変化を見ていくことで新たな課題を整理して年次更新をしてもらいたい。</p> <p>○次年度よりスクール・ミッションとスクール・ポリシーに基づいた教育活動を展開していく上で、各学舎が、特に生徒・保護者等・地域住民にその内容と意味を周知・徹底する必要がある。そのためにも文書で示すだけであったり、ホームページで公開したりするだけではなく、日常的に言葉で伝えていく方法を教職員の共通認識のもとで取り組んでいく必要がある。</p>
----------------------------------	--

次年度への 改善の方向 性	<p>○スクール・ミッションとスクール・ポリシーで示す本校そして宮津学舎が目指すべき姿について日常的に生徒たちに分かりやすく説明することで、徹底を図る。併せて保護者等、地域住民、中学生等にも広く周知することで、本校と宮津学舎の魅力を理解してもらい、地域にファンを作る。</p> <p>○宮津学舎のゴールである「生徒の高い学力」を育成するために、タブレット端末も活用しながら質の高い授業(授業第一主義)を提供する。</p> <p>○教科教育、探究活動、学校行事、部活動など教育活動全般を通して協働・交流できる部分を整理し、学舎間の繋がりの幅を広げることで、学校全体の教育力を高める。</p> <p>○地域との連携や交流の機会をさらに充実させること(地域資源の活用)で、生徒のキャリア形成と地元の魅力発見と愛着に繋げる。</p> <p>○学校評価アンケートで明らかとなった課題を整理し、優先順位を見極めて解消していく。</p>
------------------------------	---